

3

取り組み
地域では…

田原キッズパトロール隊

下校時の子どもたちにあいさつをしたり、青色回転灯を装備した乗用車でパトロールをしたりするなど、子どもたちの安全を見守ってくれているのは、防犯ボランティア団体、田原キッズパトロール隊（おたにたつり大谷龍徳隊長）の皆さん。現在、市内全小学校区に方面隊を置き、積極的な活動が続けてくれています。



田原キッズパトロール隊の皆さん

子どもたちを守るのは市民の“視線”。 地域全体の防犯に対する意識で、 まちの死角を減らしましょう。



“視線を恐れる犯罪者”

一人きりの子どもがねられることからわかるとおり、犯罪者は、誰かの視線をもっとも恐れているといえます。市やボランティアの皆さんが行っているパトロールは、まちの様子に気を配ることと犯罪を未然に防いでいるのです。そして、このパトロールは誰にでもできることなのです。

市民でパトロールを实践

例えば、何かの用事でまちを歩くとします。あなたならどうしますか？このとき、少しだけ周りの様子を気にしながら歩くだけで、まちの死角

が少なくなるといえます。あなたの視線が、犯罪者を遠ざけることになるかもしれないのです。

市やボランティアの皆さんが日々パトロールをしても、まちの死角を完全になくすることはできません。しかし、このような市民の視線が増えれば、確実に死角を減らすことはできます。子どもをねらった犯罪者を寄せ付けないために。さあ、今日からあなたもまちのパトロールを！

日ごろから防犯意識を

市や学校だけでなく、一人でも多くの方が、防犯に対する意識を持つことが大切です。例えば、一人で歩いている子を見かけたら気を配り、声を掛けるといった、ささいなことでも構いません。こうした意識を持った方が増えれば、子どもたちがねらわれる確率は確実に下がります。子どもたちは地域の財産です。市民全体で協力し合い、犯罪者の手から守っていきましょう。